

熱帯の有用材 (15)

緒方 健

アフリカンパドーク (African Padauk)

学名: *Pterocarpus soyauxii* Taub. (マメ科)

アフリカンパドークはマメ科マメ亜科 (Papilionoideae) に属し、ナイジェリア南部、カメルーン、ガボン、コンゴ、ザイール、アンゴラ北部にかけての熱帯西アフリカに分布する。降雨林に生育する樹木で、しばしば小さく群生する。パドーク (Padauk) というのは本来はビルマ〜タイにある同属の *P. macrocarpus* Kurz (わが国ではカリンの名で知られる、また同属の他の樹種と区別するために Burma Padauk ともいう) のビルマ名で、“パダウク” がより正しいと思われるが、英語化してパドークと呼ばれるようになった。すなわちアフリカのパドークの意味である。また Padouk と綴られることも多い。このほか英語名では Camwood, Barwood または Redwood, ドイツ語名では Afrikanisches Rotholz または Afrikanisches Korallenholz と呼ばれる。現地名としては Osun または Arapka (ナイジェリア), Ba, Corail, Epion, Mohingue, Muenge, Mbe, Mbil または Ndimbo (カメルーン), Mbel, Mognoda, Issigou または Ebeu (ガボン), Kisesi (コンゴ), Boisulu (Bosulu), Kisesi, Ngula または Wele (ザイール), Takula (アンゴラ) などがあるが、これらが木材の商業名として用いられることは少ない。

樹木の形状: 樹高 30~40 m, 直径 0.8~1 (~1.5) m, に達し, 15~20 m の枝下高がある。樹幹は通直で、薄い板根が高く発達し、しばしば縦溝が入って幹の断面が凹凸する。樹皮は灰褐色で、縦に細かく割れ、狭い薄片状に剥げる。樹皮の厚さは 0.5~1 cm で、内樹皮は赤褐色を帯び、切口から暗赤褐色の樹液がにじみ出る。葉は 7~13 の小葉をもつ羽状複葉。小葉は楕円形で、大きさはおよそ幅 3 cm, 長さ 7 cm である。花は長さ 1 cm ほど、黄色で、円錐花序に咲く。果実は直径約 8 cm の円形の莢で、周囲が翼状になり、中央に 1 個の種子がある。

木材の特徴: 辺材は淡黄白色で、のち褐黄色になる。辺材の幅は広く、10~20 cm ある。心材ははじめ鮮紅色~鮮橙紅色で、のち紫紅色~暗濃紅色~橙紅色になり、しばしば紫黒色の縞が現れる。肌目の精粗はやや粗~粗、木理は交錯する。気乾比重 0.65~0.85。顕微鏡的な識別上の特徴としては、道管は孤立するものと半径方向に 2~8 個複合するものからなり、孤立管孔の接線方向の径は 140~320 (~430) μm 。道管の分布数は 1~2/mm² で、全体にはほぼ一様に分布し、アジアの *P. macrocarpus* や *P. indicus* に見られるような環孔材的傾向は示さない。放射組織は幅 1~2 列 (1 列のものが主体をなす)、高さ 150~250 μm で、明瞭な層階状配列を示す。軸方

向柔組織は連合翼状～带状で、ルーペでも密な間隔の淡色の波線として認められる。繊維は長さ1.0～1.7mm。5～15個程度の結晶がくさり状に連なる多室結晶細胞が存在する。シリカは含まない。

Pterocarpus 属の樹種では、木材またはその水浸出液が紫外線により蛍光を発

するものが多いが、本種では蛍光が見られない。

木材の加工性としては、乾燥には比較的時間を要するが良好で、ほとんど狂いがなく、乾燥後の寸法安定性が高い。生材から乾燥材までの収縮率としては半径方向2.6～3.6%、接線方向4.1～5.4%の値が出されている。製材は送り速度を遅めにすれば問題はなく、仕上げ加工も良好であるが、交錯木理のために鋭利な刃を用いる必要がある。接着接合性、釘接合性も良い。菌や昆虫に対する心材の耐朽性は高い。

用途としては色調の美しさと、また比重相当の強度及び寸法安定性に優れることから、高級フローリング、工芸細工や彫刻、精密工具やナイフの柄などがあげられ、狂いにくいので床下暖房を行うフローリングにも使用可能である。カリンと同様、家具、キャビネット、装飾用造作材などにも用いられるが、ただこの場合、赤橙色がきわだって濃いためにこのような用途に用いられることは比較的少ない。

材としての用途のほかに、粉末にした心材から得られる色素は古くから黄赤色系染料として繊維を染めたりあるいは体を彩るのに用いられた。しかしこれは日光や石鹼で退色するのが欠点で、アリザリンの出現によりほとんど用いられなくなった。人体に無害なので、トマトケチャップなど食品用の染料としては今日でも用いられ、ヨーロッパ等へ輸出されている。若葉は現地でも食用にされ、とくに乾季に一般の野菜類が不足する時期にはその代用として重要で、そのため人家周辺にもよく植えられる。

Pterocarpus 属は約50種の樹木からなり、世界の熱帯に分布する。そのうちアジアの *P. macrocarpus* Kurz (ビルマ、タイ)、*P. pedatus* Pierre (インドシナ)、*P. indicus* Willd. (ビルマ南部～フィリピン～ニューギニア)、*P. dalbergioides* Roxb. (アンダマン諸島)、*P. santalinus* L. f. (インド)、*P. marsupium* Roxb. (インド) および *P. vidalianus* Rolfe (フィリピン)、東アフリカの *P. angolensis* DC. なども美しい心材をもった良材として知られる。

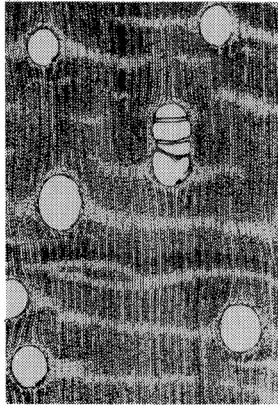


写真-1 *P. soyauxii*
木口面 (16×)

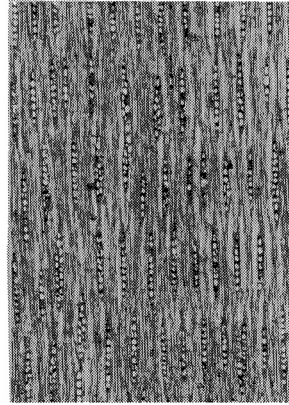


写真-2 同左 板目面 (40×)